

しあわせの杜

しあわせ祈願の宮
本莊神社発行 第21号
〒500-8369
岐阜市敷島町9-24
honjojinja-gifu.gifu-city.net

「八岐(俣)大蛇伝説」と 鱈餅の由来

本莊神社宮司 今津隆弘

◎『八岐大蛇伝説』とは

須佐之男命が出雲の国の肥の川の辺りにくると、娘が一人、年老いた両親と泣いていました。娘の名は櫛名田比売。親の名は大山津見の神の子で、足名椎、手名椎といいました。そこで、命は、理由を聞く足名椎は世にも恐ろしい話を始めました。

この山奥に八俣の大蛇という頭が八つもある怪物が住み、一年に一度この里にできては、娘を一人ずつ食べるというのです。そのため八人もいた足名椎の娘も、今では櫛名田比売だけになってしまいました。今年もまた大蛇が娘を食べにやってくる時期になっていました。話を聞いた命は、大蛇を退治することになりました。そこでまず、家の周

囲に垣根をつくり、そこに八つの入り口をつけ、入り口ごとに強い酒を入れた大きな甕を置きました。しばらくすると辺りが急に暗くなりました。不気味な物音とともに、大蛇がやってきました。それは恐ろしい姿でした。

八つの頭にはガラガラと真っ赤な眼が気味悪く光っていました。ガブガブと勢いよく酒を飲みはじめました。須佐之男命は大蛇にそつと忍びよると、手にした剣で大蛇めがけて切りかかりました。気づいた大蛇は命めがけて飛びかかってきましたが、酔っぱらった大蛇をひらりとかわし、次々と切り倒して見事退治しました。最後にシッポを切ったとき、りっぱな剣がでてきました。

大蛇も退治され、出雲の国にまた平和がもどりました。命は大蛇のシッポから出てきた剣を天照大御神さまに奉り、その後長く櫛名田比

売とこの地で暮らしました。
(神社本庁氏子のしおり第五四号「はじめての古事記」日本の原点にふれるより)

◎八岐大蛇伝説が意味するもの

退治されたオロチは古代においては、蛇は水神であり、山神であり、雨水を司る神とされてきました。雨はしばしば雷をともない、稲光が蛇の形に似ていることから雷神ともされてきました。

そして、稲の育成には水が必要なこと、農耕とも結びついてきたと考えられます。古代の平田川(長良川)は、農耕に必要な水を供給すると同時に、しばしば洪水を引き起こしました。

本莊地域は、奈良時代に東大寺の荘園が設けられるも洪水のためはげされ、中世に皇族領が寄進されて長講堂の平田荘が設けられたと伝えられています。

江戸時代には、しばしば水害の記録が残っていて、寛永十年(二七九八)四月には、忠節や鏡島で堤防が決壊、同年七月にも鏡島で再び堤防決壊、最も甚大な惨事となったのは文化十二年(一八二五)の「亥年切れ」で、鳥屋(現在の大池町)地

内で堤防が決壊し、洪水により鳥屋村を始め、市橋や鏡島にも甚大な被害をもたらしました。

洪水は一時的には農耕に害を与える一方で、肥沃な土地を生み出すことから、長良川に大蛇に農耕の神と理解することもできるでしょう。

オロチ退治は長良川の氾濫と治水を象徴しているとされ、農耕に必要な恵みの雨を祈る際には、「雨乞い踊り」を行ったのです。

◎鏡餅とは

鏡餅とは、大小の丸いお餅二個をひと重ねにしたものです。

お餅の原料になるお米は、日本人にとって大切なものです。

貴重なお米をついて作ったお餅は、昔の人にとって特別なものでした。そのため、正月お祝いのときに神仏に供えるものとして、古くから親しまれてきたのです。

昔から鏡には神様が宿るとされ、神聖なものとして扱われていました。そのため、お餅を鏡に見立てて「鏡餅」と呼ぶようになったようです。

日本では、年が明けると、年神様と呼ばれる神様が訪ねてくるという言い伝えがあります。鏡餅をお

供えることで神様と新年をお祝いし、一年の良運を願うという意味が込められています。

◎鱈餅奉献について

(鏡餅の項については、デリキッチンより引用)



先に見てきたように、鏡餅が神様に供える特別なお供え(神饌)であることが窺われます。本莊神社では、年に一度の大祭の際に、御祭神・サノオの八岐大蛇退治に因む鱈餅を「特殊神饌」としてお供えしてきました。

貴重なお米を使う鱈餅の奉献は、地域の繁栄の証なのです。

昭和十三年に岐阜県神徳会が発行した『岐阜県神社要覧』の郷社本莊神社の項には、

六、特殊神饌例祭当日祭神が八岐大蛇を退治されし御事歴に因み、大の鱈形の餅を以て飾造せし、白赤胴形の神饌を供す。

と、記され八十五年前に特殊神饌

として「鱗餅」が存在したことを示す記録があります。しかしながら終戦後にはいつしか「鱗餅」の奉獻が失われました。

この「鱗餅」奉獻が復活するのは、平成十八年です。実に七十年ぶりに奉納が復活したのです。

この復活に際して加納三郎さんが『本莊神社誌』の中で当時の回想録を記しています。

こうした先人の苦勞があつて、現在に繋がっているのです。

実は、本莊神社の「鱗餅」奉獻が復活した後、六條神社の「御棚餅」奉獻は途絶えてしまいました。

本莊神社の古伝承によれば、三里の六條神社、市橋の八雲神社と本莊神社の三社は、かつては一つの神社だったと伝えています。

関ヶ原の前哨戦の岐阜城の攻防の際、当時「楡賀保明神」と称された神社は江戸期に三つになり、三里は八岐大蛇の頭、本莊は胴体、市橋は尾を表す餅飾りを奉納したと伝えられています。

三里や市橋のそれぞれの神社の由緒にはこうした由来は記されていませんが、言い伝えは大切に伝え

たいと考えています。

こうした復活した伝統を今後も絶やすことなく、継承していくことに皆様のご協力をお願い致します。

本莊神社の

うろこ餅奉納について

中山道加納宿文化保存会
理事 安田修司

さる四月五日の本莊神社例祭で、うろこ餅奉納に拝する機会がありました。これがかつて聞いたうろこ餅なんだなど、その大きさの立派さや華麗さ・威厳さに見とれていました。ひし形の餅、それも花びら餅(十二枚・十二か月・時間)と、いわゆる菱餅(八段・八つの、頭と尾)との微妙な組み合わせや上下に置かれた鏡餅の重厚さに少し見とれました。

地元の郷土史(本莊三里・市橋)を読んでいた折に、とても興味のあることが記されていたので記憶していることがあります。

文化年間、十九世紀の初めにできたという中山道分間延絵図について、三里の清村と本莊鳥屋村との村境(現在の清本町一〇丁目と稲

荷町五丁目)の旧中山道の南と北にそれぞれ社宮司が二宮、描かれていたのです。この社宮司が南をオシャゴジ、北をメシャゴジという。いずれかの時代に、出雲神話の八岐の大蛇退治説と習合したという話を聞いたことがあります。

私は三里校区に住んでいます、かつて六条神社では、毎年春の例祭にお棚まつりがありました。大蛇の鱗を、うろこ型の餅になぞらえて神前にお供えたという。三里下六条翁森地区の塩谷文夫さん宅の倉庫内に、そのお棚まつりに使われていた奉納道具・資材等を見せていただいたことがあります。

最近の説によると、出雲神話の八岐の大蛇というのは、出雲地方斐伊川の氾濫を象徴的に述べた話とも聞きます。ということは、この辺り

岐阜の昔の大洪水の話といえば、文化十二年乙亥(一八一五)の小熊野の堤防が切れたという、いわゆる文化年間の亥年切という長良川堤防の決壊とその大洪水が、古地図(昭和六年発行本莊村史の付録)に描かれていました。地元の大洪水の話と八岐の大蛇伝説がドッキング

しているのだらうと思います。

両親から時折聞いた話です。長良川で大雨が降ると必ず、「本莊の小熊野の堤防が切れたことがあるから心配だな」というのです。一番堤防の破堤しやすい箇所だったのでしよう。そして、最近九〇代の古老の方から聞いた話です。「若いころ地元水防団の仕事で井戸を掘っていたら地中から直径五〇センチ以上の巨木が数本出てきた」(清本町六の善超寺辺りのこと)と言われた。お聞きしていると、昭和三十年代の話です。先述した、古地図には砂入りとか砂利入りとかの記載が一〇箇所程ありました。破堤により川の土砂が流入して堆積したところなのだと思います。

三里の旧清村青年団の有志が作成した「昭和三十年頃の清本町・柳森町の周辺地図」によると、砂山という地名が今の清和公園辺りにあります。そして東隣には四つ池という地名も残っていました。四十〜五十年前まで生きていた地名なのです。軽率に考えることは慎まねばいけません、案外この亥年切の大洪水と関係あるのかもしれない。

ません。

古代史に造詣の深い知人が教えてくれました。社宮司信仰の淵源は、信州諏訪地方らしい。それも建御名方神(諏訪明神)に抗した国津神である、洩矢神に由来するという。少し興味がわいてきたので、江戸時代の絵図にあった社宮司はどこへ行ってしまったのだろうか(今は現地にはない)と思い調べてみました。南の社宮司(オシャゴジ)は、三里清本町の旦ノ越神社に合祀されていました。由緒書きによるものです。北の社宮司(メシャゴジ)は、本莊村史によつて三ツ又齋宮神社(齋宮は社宮司に通ずか?)までは分かりましたが、それ以降については残念ですがよく分かりませんでした。でも勝手な憶測ですが、案外鳥屋八幡神社に合祀されているのかもしれない。

変わるもの(いつ)、
変わらないもの(いつ) 3

中山道加納宿文化保存会
会長 尾関孝彦

江戸時代末期まで、江戸と京都を結ぶ「街道」は表街道としての「東

海道」と、言わば裏街道としての中山道でした。約五二八kmを歩く中山道には、六十九の宿場があり、加納宿もその一つでした。

中山道を江戸から京都へ、京都から江戸へ多くの人々が往来しました。

では、どんな人が通行したので

しょう。前号で述べたように、中山道は「姫街道」とも言われるように、江戸幕府の将軍に多くの姫君が中山道を通り輿入れしています。徳川九代将軍・家重(延享二年～宝暦十年・一七四五～一七六〇)に嫁いだ比宮が、中山道を下向したのが初めだと言われています。その後、十代将軍・家治(宝暦十年～天明六年・一七六〇～一七八九)に嫁いだ五十宮、十三代将軍・家定(嘉永六年～安政五年・一八五三～一八五八)に嫁いだ有姫などが挙げられます。

なかでも最も有名なのは、十四代将軍・家茂(安政五年～慶応二年・一八五八～一八六八)に公武合体論が国の平安のためと、仁孝天皇皇女・和宮が最後で、最大の降嫁でした。

文久元年(一八六二)十月二十日、

京都御所を出発した皇女和宮は、二十五日美濃国に入り、二十六日加納宿に到着しました。

本陣・松波藤右衛門宅に宿泊しました。その際、和宮が詠んだ歌が、加納本町二丁目の本陣跡(現青木雅敏宅前)に歌碑として残されています。



その後、美濃路で三泊(大田宿・大湫宿・中津川宿)、十一月一日に中津川宿を出発し、信濃に入り、十一月十五日に日本橋に到着。江戸に入りました。十月二十日に京都桂御所を出発し、二十六泊の長旅でした。この旅行列に、二万人のお供や警護方が同行したとも言われています。

この行列が安全に通行できるように、美濃国だけでも延べ六万人以上の人々が、中山道沿いのみならず、遠く離れた村からも動員されたとされています。

御嵩宿の上之郷村に、和宮通行時の三十項目近い注意事項の触書が残されています。

中山道を通られた姫君

	嫁ぎ先	
●比宮増子	伏見宮邦永親王王女	徳川 家重 享保十六年八月
●五十宮倫子	閑院宮直仁親王王女	徳川 家治 寛延二年三月八日
●樂宮喬子	有栖川宮織仁親王王女	徳川 家慶 文化元年九月七日
●登美宮吉子	有栖川宮織仁親王王女	徳川 斉昭 天保二年二月
●有君	鷹司正熙女・任子	徳川 家定 天保二年八月二九日
●寿明姫	一条忠良女・秀子	徳川 家定 嘉永二年九月一九日
●和宮親子	仁孝天皇皇女	徳川 家茂 文久元年十月二六日

中山道を江戸から京都へ向かったのは、地球一周分となる約四万kmを測量し、「大日本沿海輿地全図」を作成した伊能忠敬がいます。

伊能は、寛政十二年(一八〇〇)から約十七年間にわたり、全国沿岸を測定しました。文化六年(一八〇九)から始まった第七次測量に中山道

を江戸から歩いて美濃国を通過して、十月十四日御嵩宿、十五日大田宿に宿泊したとの日記が残されています。当然、加納宿も通ったと思います。

幕府が、諸大名を統制するための法典を二代将軍・秀忠時代の元和元年(一六一五)に定めた『武家諸法度』を、三代将軍・家光が寛永十三年(一六三五)に改定し、参勤交代制を制定しました。そのため、加納藩をはじめ約三十の大名が中山道を利用して、江戸に向かったと言われています。

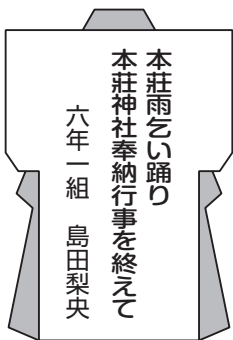
その他、吉田松陰、貝原益軒など。又、加納宿は通っていませんが、水戸藩浪士(天狗党)も、中山道鶴沼宿付近まで来ています。

中山道、東海道は、名も無き一般庶民、商人、武氏など多くの人々が利用した日本の幹線道路でした。

明治時代になり、東京と京都を結ぶ鉄道計画が発表されました。旧東海道ルートが考えられたそうです。明治二十二年(一八九九)、東京と神戸間の鉄道が開通し、江戸(東京)と京都を結ぶ街道としての東海道、中山道は衰退し、同時に宿場町

も衰退していきました。しかし、街道沿いや宿場に古来より継承されて来た各地に残る伝統行事や、神社の神事は「不易」なものとし、後世に残すことが重要なことと考えます。

そして、次の世代に継承することは、私たち大人の「使命」ではないでしょうか。(完)



先月に、発表した自信のせいか、完ぺきにやれる気がしました。

でも、実際は立ち位置を間違えるわ、たたくタイミングがずれるわでボロボロでした。私は真つ先にコロナをうつらしましたが、自分の練習不足というのが一番しつくりきま

す。来年も放課後の雨ごいに参加するべきと思いました。また、時間があれば、自転車をつかっ飛ばして、土曜に練習に行くなどとして、もっと上手になりたいです。

そして、この雨乞いの伝統を絶やさぬようその松明を手わたししていけるような人になりたいと思います。

**本莊雨乞い踊り
本莊神社奉納行事を終えて**
六年一組 佐藤希美

最初は、主題曲をやっていて、みんなであわせてみたら、はやさや入り方などがむずかしかったりしてやりなおいしたりしたけど、二回くらいすると、どんどん慣れていってあわせてよかったです。

そして、いろいろな曲をやったりほかごあまごいの人たちとできたりして、少しはちがう学年の人とお話できたのでよかったです。

**本莊雨乞い踊り
本莊神社奉納行事を終えて**
五年一組 さとうよしあか

ぼくは、この本莊神社ほうの行事をおえて最初はきんちょうした

けれど、最後はきんちょうせずにできてよかったです。

「本莊雨乞い踊り」岐阜市のちいさき伝とう文化をのこしていけるようにみんなにひろめていきたいです。岐阜市の地いき伝とう文化をさいごまでのこしていきたいと思います。

**巫女舞奉納
市田先生へ感謝のことば**
大久保昌



いつも私たちの巫女舞を温かく見守ってください、ありがとうございます。先生のおかげで春の大祭で無事奉納することができました。

私は巫女舞を始めて三年になります。姉がやっているのをみて私も参加したいと思い、始めました。昨年は新しい衣装をそろえていただきました。気持ちを新たに舞うことができました。コロナの影響で、春だけだったのが残念です。今年は夏の夏越祭で舞えたいと思います。

**巫女舞奉納
市田先生へ感謝のことば**
村瀬こころ

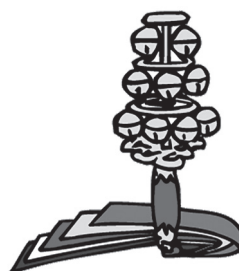
いつもありがとうございます。衣しよを着て、かみがざりをつけると自然と心がひきまいます。

わたしは、もうすぐ小学校を卒業します。みこ舞の貴重な体験は、わたしの小学校生活の良い思い出の一つです。中学生になったら、少しでも後は

いのお手本になれるようがんばりたいです。

みこ舞を楽しく学ばせて頂けるのは、市田先生や地いきの方々たくさんの方々の支えがあるからです。

みなさんへの感謝の気持ちを忘れず、これからも練習にはげみたいと思います。



**巫女舞奉納
市田先生へ感謝のことば**
岡海心

私は、みこ舞を5年生の時から始めました。

初めは、難しいおどりだと思っていた。でも、たくさん研修をやった。いくうちに、上手におどれるようになり、今は楽しくみんなでみこ舞を

やっています!!

これからもみこ舞を続けてみんなにみこ舞の良さを知ってもらいたいです。

これからも頑張ります!



**御朱印・限定守の
授与について**

◎御朱印帳授与

初穂料 金二、〇〇〇円也

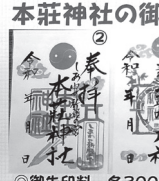


御朱印帳には、あらかじめ種類の御朱印を記入しております。

◎通常の御朱印授与

初穂料 金各二〇〇円也

本莊神社の御朱印



① 本莊神社
② 御祭神・スサノヲ(茅の輪)
③ 本莊神社 (三種の神器)
受付 毎週金・土・日曜日
午前10時～午後3時まで
※御朱印帳への書き入れ致します

神職が日勤する毎週金・土・日曜日並びに祝祭日は通常の御朱印として、二種類を授与しております。

◎金の御朱印授与

初穂料 金五〇〇円也

金の御朱印



令和4年5月20日

本莊神社では、柳ヶ瀬まちづくり会「ひとひとの会」が企画実施する毎月月末金曜日の「金の御朱印めぐり」に参加し、四月から「金の御朱印」の授与を始めました。

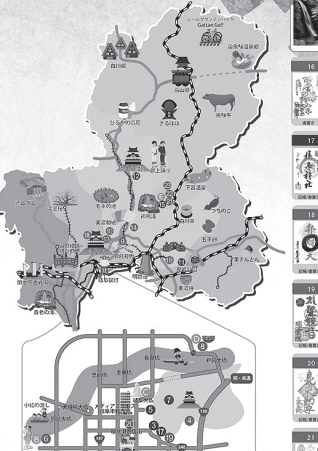
同会では、現在二十四の寺社が参加しております。

元々は、金神社が鳥居を金色に塗り替えたことをきっかけとして、「プレミアムこがねデー」として月末金曜日に特別な御朱印を出したことが始まりで、岐阜市内には「金」がつく地名が多く、岐阜駅前の金の信長像、岐阜大仏などもあり、地域振興に役立つのではと、ひとひとの会が「金の御朱印めぐり」の企画を立ち上げました。

※詳しくはひとひとの会(印)をご確認下さい
<https://hiobito.indofree.com>

毎月月末金曜日に限定 金の御朱印めぐり
～黄金の国ぎふ～

2022年4月発行



1 金神社 2 玉性院 3 岐阜信長神社 4 弘峰寺 5 伊奈波神社 6 乙津寺
7 岐阜城 8 護国寺 9 関善光寺 10 真長寺 11 鬼岩公園 12 郡上八幡城
13 醍醐寺 14 日龍峯寺 15 黄金姫の郷 金山 16 願興寺 17 檀森神社 18 東光寺
19 瑞雲院 20 正覚院 21 長福寺 22 玉龍寺 23 東林寺 24 本莊神社

※本報金曜日は、各社に30分程度のお問い合わせに際しては対応できない場合があります。
事前に確認していただく必要があります。お問い合わせは、お電話にて。
※各社では、現金での授与を希望する場合は、お電話にてお問い合わせください。

- ①金神社 ②玉性院 ③岐阜信長神社 ④弘峰寺 ⑤伊奈波神社 ⑥乙津寺
⑦岐阜城 ⑧護国寺 ⑨関善光寺 ⑩真長寺 ⑪鬼岩公園 ⑫郡上八幡城
⑬醍醐寺 ⑭日龍峯寺 ⑮黄金姫の郷 金山 ⑯願興寺 ⑰檀森神社 ⑱東光寺
⑲瑞雲院 ⑳正覚院 ㉑長福寺 ㉒玉龍寺 ㉓東林寺 ㉔本莊神社

◎限定御守授与

初穂料 金一、〇〇〇円也



当初は、金神社と関わり深い、伊奈波神社、檀森神社の三社のみでしたが、こうした取り組みに近隣の寺院が共感して、参加寺院が増えました。

当社も、ひとひとの会から「本莊神社はパワースポットなので、是非参加してほしい」とお誘いがあり、役員と説明を窺って四月から参加することと致しました。

月次祭で祈願して当日のみ授与する「月次祭限定御守」を、金色に因む月末金曜日の「金の御朱印」の日にも授与することとなりました。

ひとひとの会のインターネット

での宣伝もあつて、県外の方が多く見られ、インターネットの効果の大きさに改めて驚かされました。

今後、毎月の月末金曜日に金の御朱印を授与致します。特別な台紙をつくり、神職が手書きで書いたもので、「書き置き」のみで、朱印帳への記帳はできませんので、よろしくお願ひ致します。

今後は、月次祭の第一土曜日と月末金曜日の月二回授与致しますので、お求めの際は日時をご確認の上、お越し下さい。

◎限定御守授与日

六月四日	月次祭
六月二十四日	金の御朱印
七月二日	月次祭
七月二十九日	金の御朱印
八月六日	月次祭
八月二十六日	金の御朱印
九月三日	月次祭
九月三十日	金の御朱印
十月一日	月次祭
十月二十八日	金の御朱印

(※十月以降は次号掲載します)

しあわせ祈願の宮

本莊神社

ご祭神・ご由緒 | しあわせ祈願の宮 | 年中行事 | お礼・お守り・ご朱印 | アクセス

『しあわせ祈願の宮』本莊神社の公式ホームページです

ニレイ ゴサンバイ
本莊神社へのお問い合わせ電話番号：058-201-5381

【令和3年祭典予定】
1月 1日 午前10時 歳旦祭・四方拝
1月14日 正午 左義長神事
2月17日 午前10時 祈年祭
4月 5日 午前10時 例祭

【月次祭】
毎月第1土曜日 午前10時
1月2日、2月6日、3月6日
4月2日、5月1日、6月5日、
7月9日、8月13日、9月17日、
10月21日、11月15日、12月19日

Find us on
facebook

ご祈禱のお申し込みはこちら

① ご祈禱お申し込み

出張ご祈禱お申し込み

本日の日付
令和3(2021)年

ご祈禱お申し込み書

投稿日：2021年3月6日 | 最終更新日時：2021年3月6日 | カテゴリー：ご祈禱・出張祭

② ご祈禱お申し込み書

日 時
ご祈禱希望日時 時刻
午前 時 分 / 午後 時 分

〒
ご住所
連絡先(電話番号)

祈禱料 円

連絡欄

③ 確認画面へ

- ① 【ご祈禱お申し込み】をクリック
※モバイル版は下にスクロールしていくとあります
- ② 【ご祈禱お申し込み書】を記入
- ③ 【確認画面へ】をクリック

ホームページはこちらから

<http://honjojinja-gifu.gifu-city.net>



お電話でのお申込みも受け付けています

058-201-5381

本莊神社でご祈禱受付の
ご案内

本莊神社では、様々なご祈禱を受け付けています。
神職が常駐していないので、予め
電話連絡にて日時の調整の上ホー
ムページのご祈禱申し込みフォー
ムにてお申し込み下さい。

【ご祈禱の願ひごひ】

- 家内安全
- 商売繁盛
- 旅行安全
- 初宮まいり
- 七五三
- 病氣平癒
- 縁結び祈願
- 自動車お祓い
- 厄除け
- 安産祈願
- 心願成就

【出張ご祈禱】

- 地鎮祭
- 開店祓い
- 竣工祭

その他、ご相談下さい。

◆ 社務所連絡先

(〇五八)二〇一五三八一